

ワタリウムでワタリウムを体験し、
この世界でこの世界について想いを馳せ、
あなたがあなたについて考える。
身体をともなってその場所の解像度を上げ、
重層化させる。 — 雨宮庸介



Apple, 2023年 林檎材に油絵具
林檎実物大(8cm×11.8cm×高6.2cm)
作家蔵

次回展のご案内

雨宮庸介展 |

まだ溶けてないほうのワタリウム美術館

会期：2024年 12月21日[土] → 2025年3月30日[日]

休館日：月曜日(1/13、2/24は開館)、12/30-1/3 開館時間：11時より19時まで

入館料：大人 1,500円 / 大人ペア 2,600円 / 学生(25歳以下)・高校生・70歳以上の方・身体障害者手帳、療育手帳、
精神障害者保健福祉手帳お持ちの方、および介助者(1名様まで)1,300円 / 小・中学生 500円

* 会期中、ご本人は何度でも展覧会へ入場できるパスポート制チケット。再入場の際、ご本人であることを証明するものをご提示下さい。

主催：雨宮庸介展実行委員会 [ワタリウム美術館、SNOW Contemporary、一般社団法人Reborn-Art Festival、株式会社秋葉機関、
木村木品製作所]

会場：ワタリウム美術館 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前3-7-6

Tel: 03-3402-3001 Fax: 03-3405-7714 Email: official@watarium.co.jp

URL: <http://www.watarium.co.jp>

WATARI-UM
The Watari Museum of Contemporary Art





「りんご宇宙—Apple Cycle / Cosmic Seed」展示風景
弘前れんが倉庫美術館 2021年 Photo:ToLoLo studio

今回の展示では、溶けたりんごの彫刻がたくさん載せられた、ライトボックスにもなりドローイングなども入れられるガラステーブルに、吹き抜けの天井から彫刻の真上にライトが落とされる。

今までまとめて語ったことがなく、この展示会のタイトルにも関係ある「雨宮がなぜ溶けた林檎を作っているのか=普遍性2.0について」を説明したビデオをテーブルの上で見せる。

雨宮庸介、東京の美術館で初めての個展。

25年前の最初期の作品をそれ以来ぶりに出品。

ワタリウム美術館を舞台に制作した最新VR作品を中心とするVR作品の総決算。

この展示会は、ワタリウム美術館を舞台に制作された最新 VR 作品を中心とし、かつ、「溶けたりんごの彫刻」や「石巻 13 分」の記録映像、「1300 年持ち歩かれた、なんでもない石」のペーパーなど、雨宮の代表作を一堂に体験できる展示会となっています。

最新作の VR 作品は、VR のヘッドマウントディスプレイ (HMD) をかぶって体験します。「VR はいまだ素人だけど V と R については 25 年以上のベテラン」と話す雨宮らしく、通常「ここではないどこか」に行くための HMD をあえて「どこかではないここ」に再注目させるためのデバイスとして定義し直します。

2024 年春に山梨県立美術館からはじまり、同年たてつづけに行われた、大地の芸術祭、Kyoto Interchange などで発表された VR 作品への取り組みの一年間の総決算というべき新作です。

美術を意識的に始めた大学生時代に通ったというワタリウム美術館での個展が、アーティストにとってどのような影響や化学反応をもたらすのか、どうかご注目ください。



最新 VR 作品のためのドローイング 2024 年

ワタリウム美術館の中で展示会の開催直前に撮影された最新作映像を体験できる VR 作品。

予定している場面は、

- ◎ 雨宮が話す・語りかける
- ◎ 窓ガラスに図説やイメージを絵の具で描く
- ◎ 歌や楽器やダンスの要素
- ◎ 下の階のインスタレーションが関係する
- ◎ エキストラ出演シーン
- ◎ フォグマシンで視界がかぎりなくなるシーン
- ◎ 前編日本語英語字幕つき

(VR 体験の長さは 23 分を予定)

※ 図版は参考作品です。実際の展示とは異なる場合がございます。

今回の展覧会タイトル「まだ溶けてないほうのワタリウム美術館」は「溶ける以前の状態が継続している」という、実はデュシャン以降のアートをアートたらしめている「過去完了」をそっと召喚しようと試みます。同時にこれは、平和にみえる無関心な日常さえも実は「まだ戦争が起きていないほうの静寂」でもあることを顕在化せんとするものです。



今回の展示は、活動初期から現在までを部分的ながらも一貫して見通せる構成をとります。一番古いものは2000年初頭の作品群で、一番最近のもの、つまりこれを書いている時点でまだ存在していないものは、設営期間にここで撮影されるVR作品です。本来「ここではないどこか」に自身をカジュアルに転送するために設計されているはずのVR HMD（ヘッドマウントディスプレイ）を使用しつつ、むしろ「どこかではないここ」に丁寧に連れ戻し、この世界そのものについて肯定を試み、仮に祝福にまでこぎつけると「この世界」と「この世界」が秘密裡に並走しはじめる。そこで獲得されるべきは大きな物語における普遍性ではなく、普遍性に合ったパーツを集めて再構成される「新しい私たち」、または「わたくしたちといふ現象」もしくは「普遍性2.0」のようなもの。そしてそれらの創生はいかにして可能か。

そんな仮説を今読んでいるあなたにそっと耳打ちすること、それこそが僕なりのアートの実践であり本展覧会で試みられることです。

2024年10月 雨宮庸介

雨宮庸介 Yosuke Amemiya

山梨県在住。1975年茨城県生まれ。Sandberg Institute（アムステルダム）Fine Art Course 修士課程を主席にて修了。ドローイング、彫刻、パフォーマンスなど多岐にわたるメディアによって作品を制作。「六本木クロッシング2010展：芸術は可能か？」（森美術館）、「Wiesbaden Biennale」（ヴィースバーデン市内各所）、「土とともに美術にみる〈農〉の世界—ミレー、ゴッホ、浅井忠から現代のアーティストまで—」茨城県立近代美術館（2023）、「青森EARTH2019：いのち耕す場所—農業がひらくアートの未来」青森県立美術館、など国内外の美術館での展覧会に多数参加。「Reborn-Art Festival 2021-22」「国東半島芸術祭」などの芸術祭にも参加している。



2014-3314年のプロジェクト「1300年持ち歩かれた、なんでもない石」を開始。リングや石や人間などのありふれたモチーフを扱いながら、超絶技巧や独自の話法などにより、いつのまにか違う位相に身をふれてしまう感覚や、認識のアクセルとブレーキを同時に踏み込むような体験を提供している。

主な展示予定作品



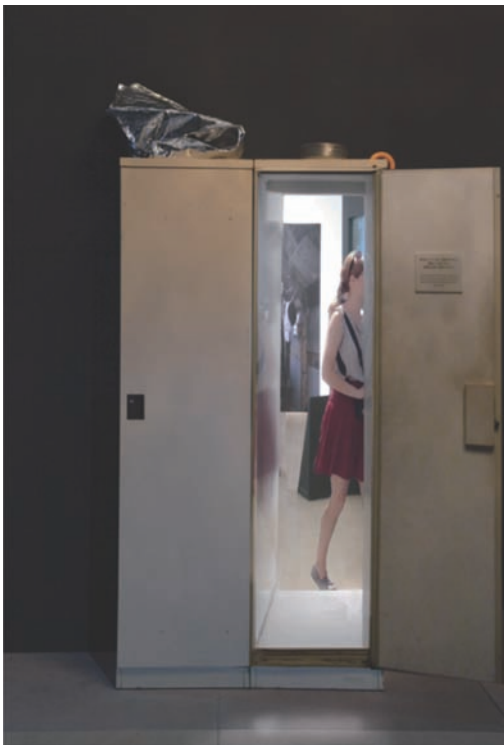
「胡蝶の正夢」2000年制作
FRPにテンペラと油彩の混合技法、台座
Photo:Yasunori Tanioka

熊のぬいぐるみの形に熊のぬいぐるみの表面を描き込んだ作品など、最初期のVとRについての彫刻を展示。



Fruits (About Universality), 2020,
35x47x16cm, 木材に油彩、ステンレスの台座
Photo:Keizo Kioku

ひとつに二つずつ絵の具がついているフルーツ盛り。その他、一番最初に作った林檎(お弁当のウサギ林檎が大きくなったもの)、粘土で作った風の戦車や誕生ケーキなども展示予定。



六本木クロッシング2010展:芸術は可能か?
出品作「わたしたち 2010年3月19日-7月4日」の出入り口

エレベーターから吹き抜けに入るドアがロッカーになっている。2007年から度々展示の入り口として登場している。

雨宮庸介アーカイヴ

小熊通信と名付けたFAX・
アートドキュメンタリストが残した記録・
油彩やドローイングなど





人生最終作「Swan Song A」の原稿 01
2019
紙に水彩、アクリル、色鉛筆、ボールペン
179 x 127 cm



「雨宮宮雨と以」でのパフォーマンス風景
2023 BUG

For the Swan Song 2024

雨宮庸介による「人生最終作のための公開練習」を行います。毎週土曜 17:00-18:00

Swan Songとは、最終作や絶筆のことを、白鳥が死に際に鳴くことをなぞって表す言葉。

*当日有効の「雨宮庸介展」入場券をお持ちの方は、自由にご参加いただけます。

関連イベント

トーク：榎木野衣 (美術評論家) × **雨宮庸介**

終電から始発までのトーク「生きているのに走馬灯」：梅田哲也 (アーティスト) × **雨宮庸介**

「まだ溶けてないほうのラジオ」 (YBS) **公開収録** などを予定

問い合わせ先

ワタリウム美術館 Tel:03-3402-3001 Fax:03-3405-7714 official@watarium.co.jp

公式ホームページ：<http://www.watarium.co.jp/>

※ 内容が更新・変更した場合、公式ホームページ/SNSにて随時公開していきます。